



令和3年7月6日
国土交通省中部地方整備局

建設現場における脱炭素化の加速に向けて ーモデル工事「カーボンニュートラル対応試行工事」を実施ー

「脱炭素社会・グリーン社会の実現に貢献するため」中部地方整備局は「カーボンニュートラル対応試行工事」としてWTO対象案件の工事からモデル工事を実施します。

1. 概要

カーボンニュートラルの実現にむけて6月18日に閣議決定された「成長戦略実行計画」において、建設施工におけるカーボンニュートラルの実現を含めて総合的に取り組むこととされている中、国土交通省においても、2030年度までの10年間に重点的に取り組む分野横断・官民連携のプロジェクト、政策パッケージ「国土交通グリーンチャレンジ」を実施しているところです。

こうしたことを踏まえ中部地方整備局では、新たな試みとして、WTO案件工事にて「カーボンニュートラル対応試行工事」を実施し、建設現場におけるカーボンニュートラルの取組みを加速させるとともに、このモデル工事を建設現場での先進事例として積極的に広報し、建設業界における脱炭素化の取組みを支援します。

※詳細については、別添を参照ください。

2. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会

問い合わせ先

国土交通省	中部地方整備局	企画部	技術管理課
課長		市川 幸治（いちかわ こうじ）	
課長補佐		桑原 良輝（くわばら よしてる）	
	（技術管理課）	TEL : 052-953-8131	
		Mailto : cbr-gikanmado@mlit.go.jp	

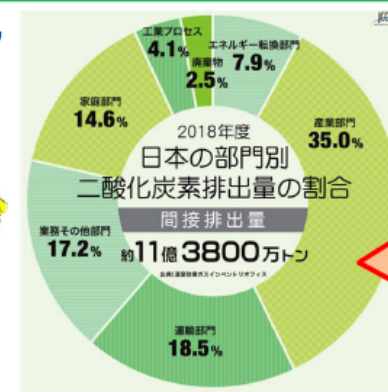
建設現場におけるカーボンニュートラルの実現

- 国内の産業部門のCO₂排出量(全体の35.0%)のうち、1.4%(我が国全体の0.5%)を占める建設機械としては、従前の燃費基準達成建設機械認定制度等によりディーゼルエンジンによる燃費性能向上を進めてきた。
- 2050年目標である建設施工におけるカーボンニュートラルを実現するため、
 - 短期的には生産性が向上するICT施工を建設業の大半を占める中小建設業へ普及を図る。
 - 中長期的には革新的建設機械(電動、水素、バイオ等)の使用原則化を含め、導入拡大を図る。

建設施工におけるカーボンニュートラルの実現

従前の取り組み

- ・ICT施工を導入し、建設現場の作業効率が向上することでCO₂排出を削減してきた。
- ・ディーゼルエンジンを基本として、その燃費向上を目指し、燃費基準の策定、機器認定を行い、融資等で導入を促進してきた。



新たな取り組み

【短期】

- ・生産性が向上するICT施工を建設業の大半を占める中小建設業へ普及を図る。

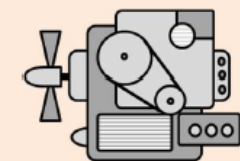
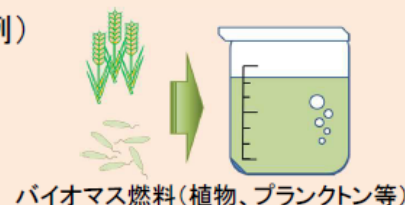
○ICT施工
3次元データを重機に読み込み、確認しながら施工



【中長期】

- ・ディーゼルエンジンに替わる革新的建設機械(電動、水素、バイオ等)の使用原則化を含め、導入拡大を図る。

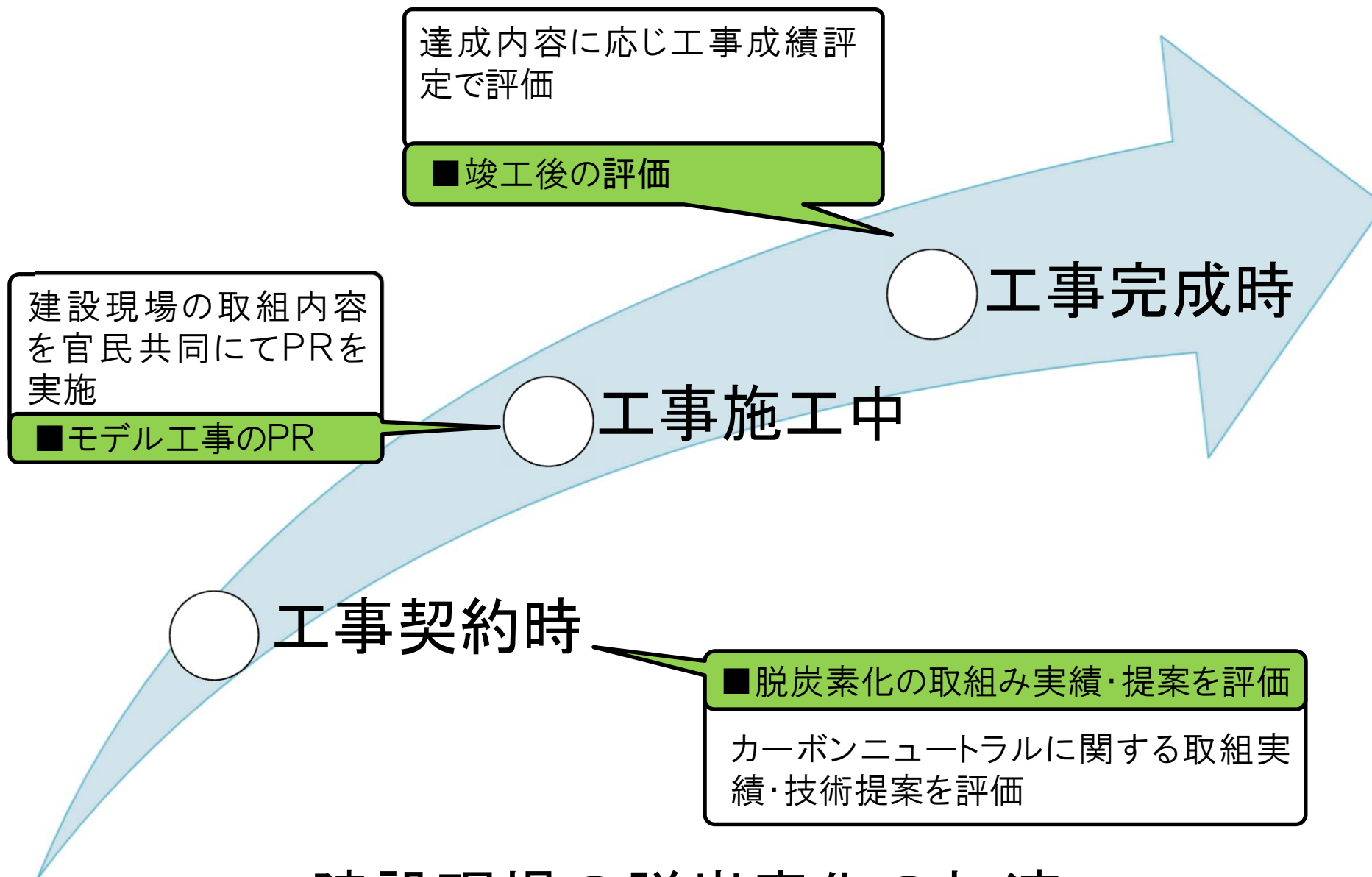
(例)



出典: 社会資本整備審議会環境部会・交通政策審議会交通体系分科会環境部会 第36回合同会議(2021年2月12日)

資料1-2国土交通省における地球温暖化緩和策の取組概要から抜粋

今回、加速させたい取組みのイメージ



建設現場の脱炭素化の加速

○工事契約時

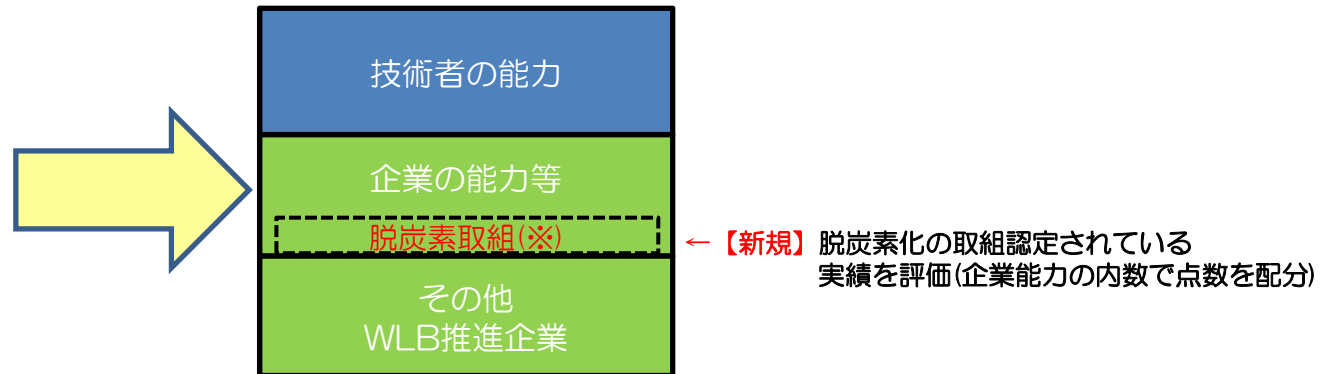
■入札契約の1次審査において、「カーボンニュートラルに関する取組実績を評価」

◇一次審査

【一般工事】



【試行工事】



■入札契約の2次審査、技術提案評価型S型において、「カーボンニュートラル推進の
取組み提案を評価」

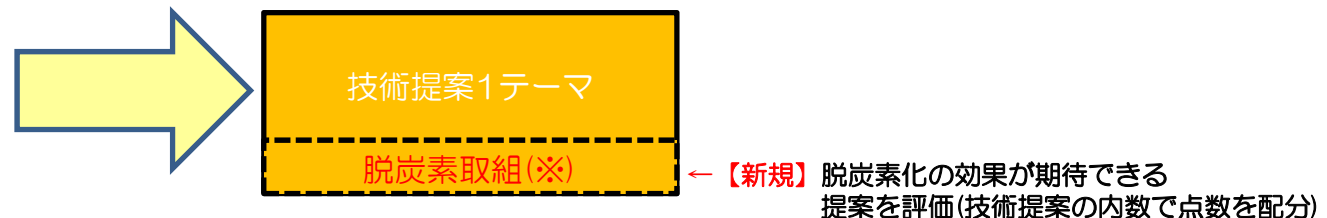
注) 工事契約時に評価したものは工事完成時評価は行わない

◇二次審査

【一般工事】



【試行工事】



※全体:評価配分点等は現在調整中

○工事施工中

■モデル工事のPR(官民共同にてPR)

- ・モデル工事看板の設置
- ・先進技術事例紹介
- ・現場見学会 など



○工事完成時

■竣工後、達成内容に応じ工事成績評定で評価

- ・「低炭素型建設機械」及び「燃費基準達成建設機械」の使用率などの目標を設定し、その達成内容に応じて工事成績評定で評価

燃費基準達成建設機械の認定制度



注) 工事契約時に評価したものは工事完成時評価は行わない